

ものづくり通じ 地域活性化目指す

合志市がシンポ

合志市は25日、崇城大情報学部星合隆成教授が提唱した、ものづくりを通して地域社会を作る「地域コミュニティブランド」を学ぶシンポジウムを同市総合センターVIPルームで開いた。

星合教授は、企業が外部の人のアイデアを取り入れ、商品化する活動を推

奨。固定観念にとらわれない斬新な新製品が生まれる可能性があるとされ、合志市はこの手法を使った地域活性化を模索している。

シンポには約300人が出席した。星合教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッションには、小野泰輔副知事や、群馬県桐生市で「地域コミュニティブランド」を実践する団体代表の小保方貴之氏らが参加。小保方氏は、伝統の繊維産業を基に人気商品が次々にできていることを報告し、「自分たちの活動を発信し続けることで、新たな技術や人材が加わり、さらに新しいアイデアが生まれた」と述べた。小野副知事は「この考えを取り入れれば、県内に新しい企業ができ、雇用も確保できるのでないか」と感想を述べた。

2013/5/26 読売新聞 P31

商品開発過程を 地域ブランドに

崇城大教授
合志市で講演

合志市は25日、地域の商品やサービスの開発過程そのものをブランド化し活性化につなげる「地域コミュニティブランド」に関するシンポジウムを、市総合センター「VIPルーム」で開いた。

同ブランド作りに取り組む同市が、住民に広く知ってもらおうと開き約350人が参加。提唱者で崇城大情報学部の星合隆成教授が「コストゼロからの起業、組織は後からついてくる」と題し講演した。

元NNTT研究員だった星合教授は、複数のコンピューターがサーバーなしでつながるネットワーク「ブローカレス理論」を構築。講演では、この理論を人間関係にも応用し、「住民や会社同士が連携すると、思わぬ発想が出る。アイデアが生まれる過程を丸ごと発信することで、消費者の共感も得やすい」などと話した。

(林田賢一郎)

2013/5/27 熊本日日新聞 P17